

移住連シンポジウム2018

—メディアのカー—

メディアはなぜ日本の移民を語らないのか

◆日程:2018年10月20日(土)

14:00-17:00 (開場13:30)

◆会場:上智大学四谷キャンパス2号館401

(〒102-8554東京都千代田区紀尾井町7-1)

資料代:500円 *申し込み不要
(上智大学学生・教職員は無料)

パネルディスカッション・登壇者

坂本信博 西日本新聞編集局デスク

荻上チキ 評論家、ラジオパーソナリティー

鳥井一平 移住者と連帯する全国ネットワーク代表理事

共催: 上智大学グローバル・コンサーン研究所
NPO法人 移住者と連帯する全国ネットワーク(移住連)

お問い合わせ: 移住連 〒110-0005 東京都台東区上野1-12-6 3F

Tel. 03-3837-2316 Email. smj@migrants.jp

プログラム

今年6月、政府は「新しい在留資格の創設」を盛り込んだ「骨太の方針」を発表し、「外国人労働者」の受入れ拡大の方向性を示しましたが、同時に、これを「移民政策ではない」と強調しています。

一方、大手メディアも海外で生じている「移民問題」を取り上げることはあっても、日本に暮らす外国ルーツの人びとを「移民」と捉えることはこれまでほとんどありませんでした。

しかし、日本に暮らす外国籍人口は、昨年末には250万人を超えました。100年以上の歴史をもつ在日コリアン、在日華僑はむろん1980年以降に来日し、ニューカマーと呼ばれてきた移住者も、第二・第三世代が生まれ、「移民」の歴史を作り出しています。

このように、日本社会は多様化しているにもかかわらず、これを「移民社会」として捉える認識はまだ限られたもののようによにみえます。なぜ日本の「移民」は「移民」として認識されず、語られないのでしょうか。本シンポジウムでは、メディア関係者とともに、日本社会の「移民」をめぐる認識について、とりわけメディアの力に焦点を当てて考えます。

プロフィール



坂本 信博

西日本新聞編集局デスク。マレーシアの邦字紙記者や商社勤務を経て現職。主に社会部で医療、教育、安全保障、子どもの貧困などを取材。外国人労働者問題のキャンペーン報道「新 移民時代」取材班キャップとして早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。

荻上 チキ

評論家。「シノドス」元編集長。NPO法人「ストップいじめ！ナビ」代表。著書に『ウェブ炎上』『彼女たちの売春』『未来をつくる権利』『災害支援手帖』など、共著に『社会運動の戸惑い』『新・犯罪論』など。ラジオ番組「荻上チキ・Session-22」（TBSラジオ）パーソナリティ。同番組にて、2016年、17年とギャラクシー賞を受賞（DJパーソナリティ賞およびラジオ部門大賞）。



鳥井 一平

移住連代表理事。外国人技能実習生権利ネットワーク運営委員。全統一労働組合執行役員。「現代の奴隷制」と批判される技能実習制度の問題を追及してきた活動が認められ、アメリカ国務省から2013年度の "Trafficking in Persons Report Heroes (人身売買と闘うヒーロー)" に選ばれた。